

# 進路のパズル 第3ピース 大学入学共通テストとは

小松川高校 進路指導部  
令和2年6月24日発行

## 1 今年度の大学入学共通テスト・推薦入試について

6月19日(金)に文部科学省から入試に関する発表がありました。概要は以下の通りです。

### (1) 日程について

- ・総合型選抜の出願開始は9月15日(2週間後ろ倒し)
- ・学校推薦型選抜の出願開始は11月1日(予定通り)
- ・大学入学共通テスト(第1日程)は1月16、17日(予定通り)

### (2) 第2日程(追試)、その他について

- ・共通テストは1月30、31日を「第2日程」として設定。第1日程の追試を兼ねる。さらに第2日程の追試として、2月13、14日に「特例追試」を設定
- ・第2日程は47都道府県に会場を設定(これまでは東京と大阪のみ)
- ・第2日程の受験は、病気やけがなどの理由のほか「学習の遅れ」が理由でも認める
- ・第2日程の難易度は第1日程と同じとし、**得点調整はしない**
- ・各大学の個別試験についても追試の設定を求める
- ・個別試験では、主に高3で学習する科目で発展的な学習内容から出題しないよう出題範囲の削減や、選択問題を増やすことを大学に求める
- ・総合型・学校推薦型選抜の出願時、調査書に高3の評定が記載できなくても可とする

## 2 大学入学共通テストとは

大学入学共通テストとは、1月中旬の土・日の2日間にわたって実施される、全国共通のテストである。国公立大学の1次試験として用いられるだけでなく87.8%の私立大学が利用している。そのため全国の受験生の多くが受験するテストである。昨年度は55万7,698人が受験している。試験はすべてマークシート式で行われる。受験科目は6教科30科目の中から大学が指定した教科・科目を受験する。一般的に国公立大学は5～6教科7科目、私立大学は2、3教科が一般的である。

### 出題教科配点一覧

教科	出題科目	科目選択の方法	試験時間	配点
国語	国語		80分	200点
地理 歴史	世界史A 世界史B 日本史A 日本史B 地理A 地理B	1科目または2科目	1科目選択60分	100点
公民	現代社会 倫理 政治・経済 倫理、政治・経済		2科目選択130分(解答時間120分)	200点
数学	数学I 数学I・数学Aから1科目選択		70分	100点
	数学II・数学B 簿記・会計 情報関係基礎から1科目選択		60分	100点

理科	①物理基礎 化学基礎 生物基礎 地学基礎	下記のA～Dのいずれか1つの選択方法により科目を選択 A 理科①から2科目 B 理科②から1科目 C 理科①から2科目及び理科②から1科目 D 理科②から2科目	【理科①】2科目選択60分 【理科②】1科目60分 2科目選択130分(解答時間120分)	①100点 ②200点
外国語	英語 ドイツ語 フランス語 中国語 韓国語		英語リーディング80分 リスニング60分(うち解答時間30分) その他 80分	各100点 200点

## 3 センター試験から大学入学共通テストへの変更点

大きな変化は思考力・判断力・表現力を評価することだ。特にセンター試験よりも思考力に関する問題が多く出題されることが予想されている。

「令和2年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針」と試行調査問題から英語の出題が変わることがわかっている。センター試験では筆記が200点、リスニングが50点だったが、共通テストではリーディング、リスニングともに100点に変更される。リーディングでは、筆記のときにあった発音、アクセント、語句整序などの単独問題の出題はない。英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションで、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できるかを「読む」「聞く」で評価する形になると言われている。

### (1) リスニングの配点

リーディングとリスニングの入試における配点重みづけは各大学の判断に任されている。国公立で配点比率を既に公表している大学から配点比率の傾向を見ておこう。以下のようになっている。自分が受ける大学がどうなっているかはHPなどを参考にしして調べよう。今年に変更なども予想される。情報も受験には大切である。

国公立大学における大学入学共通テスト英語リスニング配点比率(ベネッセ調べ)

リスニング比率	募集単位割合
20%	52.9%
25%	16.8%
50%	22.4%
その他	7.8%

### (2) 要注意の数学IA

どの教科も基本的に試験時間に関してはセンター試験と同じではある。しかし、数学IAの解答時間が70分になり、センター試験よりも10分増えている。「資料」「データ」「分析能力」というキーワードが数学Iの「データの分析」と直結しており、例年よりも分析に時間がかかる問題が増えることも予想される。